

特集 学校とICT

一人一台のタブレットPC活用で目指すもの

活用型学習でのICT活用

大阪・守口市立橋波小学校

表現力や伝達する力の育成を目指して

内のICT環境の充実を図るなどしてきた。

一人一台配布されたタブレットPCに自分の意図を最終的に磨かなければならぬ書き込み、それを発表しないのは授業技術です。もしていく子どもたち、これは大阪府守口市立橋波小学校の授業の様子だ。同校では4年ほど前からICTを活用した教育が、あくまでもICT活動に取り組んでいる。大Tはツールにすぎません。総務省の「地域雇用創造環境を生かして、子どもICT絆プロジェクト(教たちが主体的に考え、表現したり、伝達したりする力)の育成に力を入れていきます」と続ける。

もひとりに一台のタブレットPCが配布され、電子黒板が一台ずつ整備された。またあわせて、平成23年度から2年間、パナソニック教育財団の特別研究指定校助成を受け、校

思考・表現のツールとして

そのためのグループディスカッションやペア学習を積極的に取り入れるなど、なるべく授業中に発表する機会を設けるようにしているという、「こうし

発表・意見共有をスムーズに

この日、取材したのは、5年生社会科の「さまざまな漁業」で、同校が目指す活用型学習でのICT活用のスタイルが見て取れた。

冒頭、松浦智史教諭は沿岸漁業と沖合漁業、遠洋漁業という3つの漁業について板書しながら解説した。次に、それを補足するために各漁業の映像クリップを電子黒板上に提示し、「どんな魚を、どんな船で、どんな捕り方

をしているかに注目させるにつれて漁獲量が減っていることを確認した。一方で漁獲高は減っていない身近なスーパーやお寿司店ではたくさんの魚が出回っていることについて触れ、海外からの輸入量の変化についても同様の方法で確認。教諭は「グラフの変化から、日本の漁業も随分と輸入に頼ってきていることがわかれれば」とまとめた。

ICTの有効活用で指導時間も確保

「今日のように資料をデジタルで配布すれば、書いても消したりするのがとても便利だし、タブレットPCは普段からノート感覚で使っています」と授業後の松浦教諭。

また、子どもたちに発表させる場面では子どもの画面を簡単に提示できるのが便利だとい

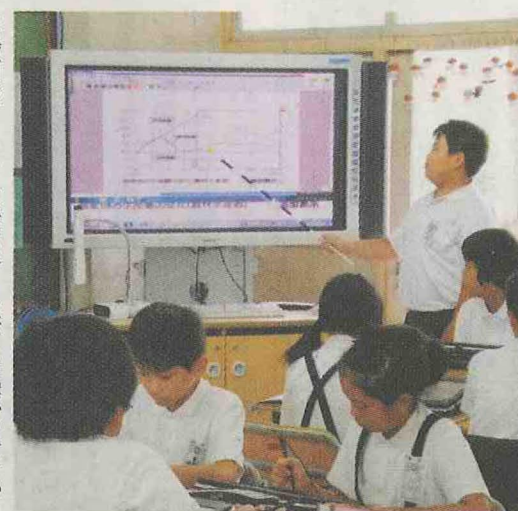
い、「発表活動を多く取り入れて、発表活動をする時間を確保することにつながっています」と話していた。

なお同校では、11月30日に「ICTを活用した公開授業研究会を開催、5クラスでの公開授業とその後研究協議会、パネルディスカッションなどを予定している。

■守口市立橋波小学校「ICTを活用した公開授業研究会」
http://www.moriguchi-osk.ed.jp/kizuna_2_h24.html



自分の考えをタブレットPCに書き込んでいく



子どもの画面を簡単に電子黒板に表示できるので、発表も行いやすい